

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 武田 時昌					
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	易と老子の自然哲学(下)										
【授業の概要・目的】											
<p>中国における科学思想の理論的特質や史的展開を総合的に研究しようとするならば、その理論的基盤を明確にしておく必要がある。理論的基盤を提供したのは、易と老子の自然哲学である。儒家、道家の經典としての成立過程や注釈史はこれまでの研究で大いに議論されているが、両書が自然探究の学問や技芸にどのような思考ベクトル、認識パターンを提供したかについては、まだ検討の余地が残されている。とりわけ、八卦の象数に投影させた数理思想、老子の長生論を発展させた養生思想には独特の科学的思考がある。それらを理論的根底に据えて数学、天文学、医薬学といった自然科学分野の理論化がなされ、同時に先秦方術、神仙養生思想から諸占術や養生術、身体技法が生み出され、科学と易を核とする占術が複合した術数学が形成された。</p> <p>そこで、中国的自然哲学の構造的把握を目的として、後期は易卦の数理を構造的に把握し、易文化の特色について、多角的な考察を試みる。</p>											
【到達目標】											
<p>東洋的思考のルーツを辿りながら大学生活の知的活動がいかにあるべきかを問い直し、生き方、考え方のパラダイムを古代人の叡智に学ぶことで、真の学問に目覚めた読書人としてキャンパスを独り歩きできるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテーマを概説した後に、参加者による自由討論を繰り広げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 八卦始原「河図洛書伝説」 2. 三易之法「連山・歸蔵・周易」 2. 易と孔子「韋編三絶と十翼」 3. 易の台頭「持満の道、損益の道」 4. 京氏易(1)「京房の災異思想」 5. 京氏易(2)「四時循環の八卦システム」 6. 京氏易(3)「八卦と方位学」 7. 後漢の緯学「易緯と郎顛」 8. 義理易(1)「王弼忘象論と老荘学」 9. 義理易(2)「書は言を尽くさず、言は意を尽くさず」 10. 中世易学「敦煌占術書の証言」 11. 易図論(1)「ライプニッツの驚嘆」 12. 易図論(2)「運氣論と近世日本」 13. 易文化論(1)「方違えの八卦占と死兆星」 14. 易文化論(2)「八卦のフォース：記憶と心理の深層」 15. 易文化論(3)「エターナルポーズの未来予想図」 											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点（自主レポート歓迎）。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

フィードバックの方法については、授業時に指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。